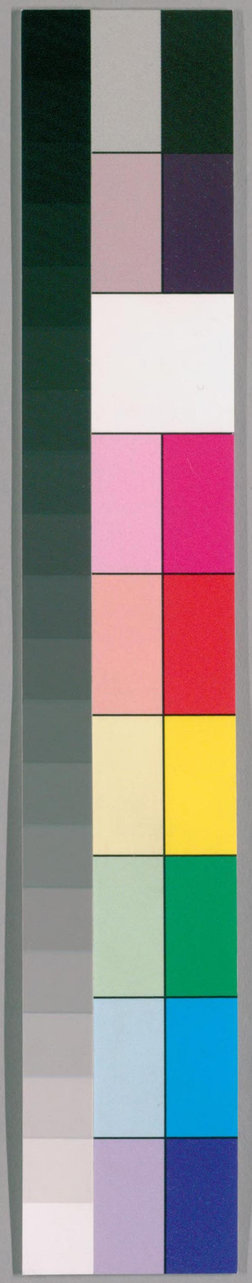
貴重圖書
WA 18
7
3

古今集遠鏡 巻之



国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7

ガラス使用

古今和歌集巻第七

賀歌

頌

よみ人しらず

永き世の千代ト分ヶ給ふさゞ石乃いてゝ苔の
むすまで

○コマカイ石ノ大キナ岩ニナッテ苔ノハエルマデ 千年モ万年モ繁昌デオイデ

ナサレヨ千ノ君ハ

濁点

ろこ海乃浜のまさごゝ我こふる
○海ノ浜ノ砂ノ数ヨダンゝニカゾヘテ君ノ長寿デゴザラッシル年数取ラセウ

三ホノ山おも
志をす山さへ

○ミヨノ山ノサルデノ祝ニスルテ井ル子ヲルガ引ノヨキケバ君ノ代ヲバヤチヨ〳〵トツナキマス

コヅヨリ〳〵ヒロガル君ガ八千代ヲコソ祝ヒ初メテシ

○ツレラガ山モ今ナヨヒヨソコモトヘ進ゼウホドニコレカラソコモトノ八千代ノヨハヒ

ノ上ヘケツレラガ齢ヨモトリソヘテソ

グサニシテツレラガコシヒダサツキ」打関ヨロ〳〵結ボロシ

○朕モドウシテナリヒ共ニモ今デ居テ十度ノトホリニ又イツタビモ〳〵笑

ヨイハコテ進ゼテソコノ八千歳ノ祝ニドウゾ逢ヤウニシメイ〳〵カナ

かづつ〳〵ふもかくにもわづ〳〵てあが八千代ぬのよし〳〵そぐれ

仁和のみぐ〳〵のみこにおくらせたまひける歌

十の賀よろづ代つるをかぞへつゝ君にぞ祝ふ千歳万歳

ゐをでゝ浄祖母るべし一おの修学院出べきなり

○山枝ハ一トホリノ和トハ又エヌ大方神ノ仮キリナサレメ杖デアラウ杖

○ベヒ枝ヨツクカラシテハ千年ノ坂モデモ心ヤスウ越ルデアラウサウ思ハレル

ちよやぬる秋ちぎりをむすびつゝ

花山院兼

約まるさ

いのるら枝の

エラ〳〵けるハ

お年の坂も

勢ゆるまるやう

ほり河のおいまち〳〵ちぎりおきし四十の賀九條の家にて

左京業平朝臣

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

梢花ちりかひくもり迄おこ〳〵ふる

○四十二日ノ夜ナサルタレバ コレカラ初老トナテ老ガコウト云チやが トウゾコヌヤウ

ニシタイモノチ六ソノ老ガ来ル道ヲフミマヨウヤウニセヨ 梢花ヨミ

トチリアフテソコラガ雲ヲウ雲ルヤウニ

来ル老ガフミマヨウテ工夫マイホドニ

さぶ紀のみこ

さぶ紀のみこをでのようそちぬ哭我ナ共ヲ

日よめる

きよつら

いそをでも山組世ようそるでおるべし

かゞ老ものおりいそ○我とめて落る滝乃志ら〳〵むちよ老ものを

○ナ大井ノ近所ナ亀ノヲノ山ノ岩ノ子ニソウテオチル滝ノ白玉ノタイ数

○小松寿命ノ千年ノ数カヤ 山ノ名サヘ亀山ナレバ

ちぶやそれみこ

ちぶやそれみこをきよ乃ふる乃五十ぢ哭そまつり

○ふる雨ふらん〳〵ぢ哭ぢ哭ぢ人の花ろろ

かつらかろ我よめる

藤原興風

○ナ二日ナ二ヲぐるテイク月日ハタイヤラスンナイヤラ何ニモヤハズニウカ〳〵トシテクラスガ

○ナヤウニ面白イ花ヲスルテクラス実ハキツウ日数ガスンナイヤウニモハルヽ

紅葉ヲ実ヲキ〳〵ヲラヽ折テ

しぐるふる月日ハありあけ(酒)で

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7

ガラス使用

と始めてゐるべしといふ心もあるべし

もゝやそのみこの七十の賀の下の句

きのつらゆき

うみてかきる

夫を思ふ心どひまに咲う梅の花

○夫がまもれば花をつゞりにさす君が千年をかざしとぞする

素性法師

いま（ふり）ゆくとしのをしさも君ゆゑぞ千年もがなとおもふ

○千年モイキメ人ハ昔モアッタカナカッメカハシラヌケレド　今デニハサウ云人ハナイニモセヨ　千年イキルメメシヨ君カラ始メセウ

ラテ思ひのまゝにうたよめるなるべし

○ツガ君ハ千年ヌドウゾ万年マデテモト　子テモオキテモ君ヒマスルコトハ人ノカニラソ及バズモ　神ガサモ思ヒニオハカラヒナサレウワサ　永君ノタメニ

神でもあれ一もさむるどいのるまでそ

○ふりぬるをいはふ心なるべし

左京大夫善がこの十賀

ふるかゆもちる世もしらぬ後もあれ千年のかげにかくれなのりそ

○鶴亀ハ千年ノヨハヒヲタメモツ物ナレドソレモソノ千年ノ後ハトウアルヤラニテ　君ハ千年ゴザッテモマダメソレデハ十分ニハ寿ゼラレバ　ソノウヘモマダ原

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

久シウ久シウ会事デオキマセウ

いおいねる人も生ルそさそろぐさもし

よしみ松のはるのおりがようそだ

てよみ侍る

等代をまつそ君我しそひつるふ

○君が万年仁寿命ヲ待ッナルバソノマッ

ソウシテソノ千年モアル松ノカゲニ鶴ノスムヤウニ　ソメシモ君ノ十年ノ万カ

ケヲ蒙ッテ共ニ生ウト居マセウトナジマスレバサ

ル松ヲつるといふ辞ヲ鶴をとりてよめるこころ

下句の泪鶴ちよとは

ないーねぬうち乃大将軍ノ行末ノ十ノ栄ーるを

季の終りつるこころの深川ふる

春日野ふとかるつみて等代をいのるこころを

○此哥ノメメカウ春日祉デ万葉ヲツミ

イハヒヤスムト云ホドハ先祖ノ社春日ノ神ガサル

サルニデゴザラウ　ちよろーんのを止ましつるごとー

山ちよをおふえもるちよろーもんの乃ゆきてをしぬ日でなし

○ろイ山デもミノアメリニえエルアノ柳もがキツウヨイ花チヤガ　山ガろサニ

○トウモアソコヘハエイカヲバ アヘドウゾ一枚ヨッテキメイ和ヂヤトヲフ心ガ毎日アノ山ヘイテアノ様ヨヨラヌ日ハサナイ

夏

ものゝ記変るゝ折ふしときゝてこちらの事をいのるもみぢ

○イツノ年モ同ジ声デナケバナミモメヅラシイ声デハナイニ アノ郭公ハオホジ年毎年キイテモサテモマア珍アカヌコトカナ

折ゆこちらの従ろう

秋

きみのえを秋風ふくがふこゑこちそみる おきの白波

○信ノ江松ヲ秋風ガサアヽトフクトソノマヽドヲハト法ノ寺ヲソウチソヘル

子ゐ折くさ不の川辺ゟ

○佐保山ノ木葉モ始ゝ色ガツサツテキタメ ハヤリナレバ今マデニモウ一ハヤ佐保川ノ辺ガタツタサウナ

秋ゐ色ど色ヒかそ〳〵ぬと記そ山ふそのゐ葉を風ぞがする

○秋ガキテモ木葉ノ色ハラヌト云常盤山ヂヤニヨッテ ハヤ山ニハ葉ハ

イニ ヨソノ山ノ葉ヲ風ガ吹テ来テサハトキハ山ヘ借スワイ

冬

きく〳〵ゐ折ふりきくゐ記そみよ〳〵のく山下風ゟ色ぞちる 篠

○ハ吉野ノアタリヘドコモカモ白イ雪ガフッタ時ニハ山ノ風デ葉ハ皆ガ散ワイ

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

○春立ちまれるをりてよめる　典侍藤原ゆきかぬ

梅が香を風の便りにたぐへつつ日ぐらし見ぬる春の山かな

○春日野の雨の夜京氏の中でもせ上もナイ（みなさき）ころの方の姫君の腹にでき給ひしを聞きて遣はしける

ツメ若き様ナレバ　テウドソノ春日山ノ雨ニ行末イツマデモノモリナウ天下ヲ照シアソバスデアラウト存ジマス

古今和歌集巻第八

離別歌

詞書略之

立ち別れいなばの山の峯に生ふる松としきかば今かへりこむ

○今せ方（いなかた）ノ京ヨリ立チ別レテ因幡ノ国（イナバノクニ）ヘイカガセウゾノイナバ山ノ峯ニハエテアル松ノ名ノトホリニソナタガセ方ヨリ待ツトツメテコウソサテデキマスカツテコウソサテ

わかれてもほどは雲井になりぬとも空ゆく人をしたはざらめや

○都立チ旅ヘユク人ニ□歌ノ心テアルセ秋ノ秋デ今別レルガ□ヒサリヨバ

もがる野辺の萩ゆゑ都なる旅ゆく人をしたはざらめや

○都立チ旅ヘユク人ニ□歌ノ心テアルセ秋ノ秋デ今別レルガ□ヒサリヨバ

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

○イットキツテヤメウゾ　ソヤキツウをイフテアラウ

打ツてがるおその流うをかぐ

うぐひすをさそふおのうらふるそを人をんりおぐ（ほ）さもやる

○今カラ別レテ限リモナイをイやヨリアチラノまへオレハイクヂやガソレデモ

○有明人ノ為ト思ヒナシニ思フテ行ウヂやヨッテ心ノ内ハドコマデモ（イッ）

ヨミツレダッテイクモ同ヂヤツサ　身コソカウシテ今別ル　心内デ

ハ当ダチアトへ泊シテオカウカイ　心デハツレダツテイクツサテ

打ツ流ノ流レトころ一紙村よろ

をのちるづみちおくのそのふまりくるを物ふそおよある

年ち弥のおやのまりとなひろ

○ソナメノ守リヂヤト思フテ流テヤル法ヂ母が心バカリヲバ　ユクサキノ実所ぐデ

モトメテトサルナ　トホシテヤッテトサレ

さぶきおみこの糸うそ沖ぢくおきよふが近江のそみふほ

うりる時ふうおそるむ来ーそるようめる

きのとーちご

うみとうを近そ行ふこと思へどもよやみぬりん神の御名紀

○今日別レテ明日ハヂキニアハレホド近イ近江ヂヤトハ思へドモ　カハツタ物デ別

レトイへバ悲シイ　アノ夜ガイヤウフケメやう神がおデヌレタツイ　イヤく

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

コヤ淺ヂヤサウナ

おゝ〳〵ありそ人ようそ〳〵ぞ添

かく〳〵ぬやうりとはきけど表裏ところ〴〵がるべ〳〵

○小金三カ〔ル山ト云山ガアルト云ナレバ名イトホリニ近付ケテ云フデカ〕ラツヤ

ラウトハ〔ドソ〕デモアノ表ノ立テアル方〔ヘ立テ別〕テイカヽツメナラバ急ヒカウ

人のこゝろぬるむ雪ぬて

きのつゆき

をしむこゝろ紀ぬをもゝをのこゝろぬん後ハ形ごてちせん

○ナゴリヲシウ思〔バマダ〳〵ツヽウヌウチカラハヤケヤウニ急ヒイヽ

立テイカヽツメ跡デハドノヤウナマヽチガせウゾ

三

そもぶこちぬ人の玉〔まかりぬる糸〕

ことが重てハほど後〔ぶりと思〔ぶやうぬ

○別〔テカラハをイそヲ〔ベテ、久シウ逢〔バ逢〔テイカヽツメ

マメカウシテ又テ居ナガラ片方テハ今カラモウ急ヒウ思ハル

ぬつ万ぬうこ〔まかりぬる人〕

いつこのぬのゆき

思〔ども万をゝ〕ぶ糸ぬバ糸ふ又ぬん後君よぶ〔てぞやる

○ナニボウカナゴリヲシウ思〔ヒ人ノヌハニッ〕ふうこ〔ヌ和デドウモ付テハエイ

カ子バ月ニハ又エヌケレドヒヲ子ぬ方〔ソハせテヤリマス

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7

ガラス使用

お坂ゝて人をこう思ふ時よ
よめる
ひつさう秋深ゝまさる紅葉ゝばひろひもあへず散よ

○アラ坂ト云名ガマサシクそなはり十抱ナラバ人ニモ
ヘバ抱リタイニ別レテユク人ヲ アヒカハラズ思ヤウニ トヽメヨウ
ト思デ
紅葉まさしきといつるふうれてそ
ゆく
ゑ
かゝる所の日ハさかしく教ゆるてそ

○四日立ノ日ヨバ明日ガヤト云テハワシヤモウ変マスマイ ワタシヨバ跡ヘヨリ
テハ無ナサルテナレバ明日ガ立チヤト変テハ明ノ教ニナツタラワシヤ
モウ変ヒマガアラウト存ジマス モノ
ヲ」マスモノ
ゝ
ゝ
ゝ

きみもものぢごろのつまんまがりをする時人の家ニやどり

てゐのつさ(イトマゴヒ)ニしそまうりやうしへくるとバ女のよ

ろこんでいぶこせりくる

えでもゝぬいろこ後ろよ今ハつゝバ家やうみうしろやさいぬと

○オマヘハワメヨイツマデモ忘レハセヌトオツキルケレモワシハドウモソレハ(サレ)エガテ

ニセヌ未デソシガ忘レルカ(五)オマヘガ忘レテトウテトサレヌカハ余ガ有テイキ

テヲ居メチラ(ニ)オツくケ知ウホドニ(ニ)メシテゴラウジヨワシハオマヘヨイツマデ

モ忘レハスマイガオマヘハオツくケツタシヨバレ忘ケサルデアラウワサ

ひのもりて佐久る人のひつまめうろへまがり家を

ぬつやぶ

ありるとそよ家

でうみうりもがよふ心乃おくるとふバうるとくるとぶがうく

○老松が今度ドレホドをイホへくイヤシヤツテモ御者が心ハイツモソノ手

松ノ方へカヨツテコーニおツテハ君子バヒツキヤウ(ヒ)身ガ今別レル

トアレラレルバカリヂヤ心別レハせヌ

友のひつまくまがりをする時よふみ○のもてをう

ふでうみうしろこかるこふ立ヒがるを心をぬることらくく松う邨

○でゝノアチコチへ(ム)テイクヤウニ今度をイヨメヨヘダテ、別レル悲サニ

今ハナムケニ進ズル千向ノ山麻(ヌサ)ノコマカナヤウニ松ろハイロく心ヲクダイテ

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

サテ〳〵ナゴリヲシイ℃ 旅ダチカナ

○みちよ行（ゆ）（ま）かりてつゐ（ひ）に京（みやこ）へつきぬる

白雲の立（たち）ゐる山をこえてきてもおもふ人にあふ坂（さか）の関

○ハルカニ雲ノイク〳〵モヘダテツテアルアチラノ玉（たま）デアラウ℃ 拾遺（しふゐ）ノ歌

ヨヨタエズ思ツテサヤウホドニタトヒノモハヘダテル℃ 心ハヘダテサツシヤルナヤ

人をこそ思ふとなけれ白雲（しらくも）のたえずもかかる我（わが）こひやする

○色コソおニムモノナ」別レトハ云ツテモ色デモナイニ ドウ云ツテデ ケヤウニ心ニシミ〴〵トツラウ云ハレヤウ

ちのこもとをる人乃こゝろ（ここ）ゆゑ（ゆえ）京（みやこ）までこそ（ここ）又（また）うつりゆくらめ

元行内親王

かつる山おもふぞ君（きみ）はありてなるかひ有（あり）てもなほこゝろみよ（ここ）

○考拾ノイカツヤルモニアルカヘル山トハ云山ハ ヨソヘイメ人ノ山ヘルト云名ゾヤトモツ

ミ」 ソカヘル山ハ 何（なに）ノヤクニメツラシヤ（るふぞ）サウ云山ガ有テモアルカイハナイ アルカヒ

トハ ケシテアリテモ京ニハトゾウラズニ スアチヘカヘルト云名デヨソア」

ニヒ〳〵ミてつゐ（ひ）にる

ようふのこゝろ（ここ）ひやそうこ（ここ）もなの（名）

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

○今カラハヨソニバツカリ月ナンカミヤウニオモツテ月日ヲメテルデゴザラウカ アナ
ヤ

糸ッテ仮ニカヽラウトモオモハレヌワシガオナレバサ

ゆきてみるとしもなき我白山乃雪我ならなくに

おとは山乃名とり立てくる人をとがるとてよめる

○

花さそふ山ふぶくゝ吹てほとゝぎすなく声もまぎれず

○ホトヽギスハ山ノ名ヲイホノ猪デゴザルイヤ声デ鳥ガアノトホリ名ヲ呼ルヽ
別レヲナゴリシヤウモッテアラウサウ空エル掛合ドモヽ同シ事サ

ふぢごろもきてなれにしつゝ月のせごとに物ヲヘバ役ニ作付ラレテ面白ヘ

○トモゞニ呼テドウゾ月トメヤセキリゞスヨ 今秋ノ別レノ時分ニ別レ

ヤスハ コレホドナゴリヲシイニソチハナゴリヲシウハナイカイ

秋ぎりのたつ立もそれるばそれぬ思ふこひや添らん

○アノ旁ノ立ヤウニモ称モ共ニ立テヲイテイカヽッテルヲヽトカシタナラワシ
ハ今カラハアノ旁ハヒヤウニ心ガハヒズニイツモオナウカシヤウモッテメテルデゴザラウカイ

こゝろをしづめ

いのちぶくりかるゝ

○今サヘカヽルニナツテ死ナズニ居ラルヽハ何ガサテ

ラウゾイ人ノ命ハ出帰リノ時ヲミテノコモ知ヌニヨツテサカナシイワイノ

山ざとをゆくびんぼうたびでもしてつ

へりがてふしてこかをこえをしつゝるふよふ

みるまゝ

○人ノサセル弦デハナシ永ウカラインガイナラ

モウイキトモナイトニテドヤカヘラウゾ

今ハこゑよりかくり永とちゐがひるをりふしこゑる

芳原のくるわ

○ドコマデモ一ショニイキタイトシタハレテヲコレマデキメ心ニ着テアル永ダ

ニヨツテカヘリナニハそモエシリマセヌ

藤原こゑをつむさ

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

[illegible]
かりこえてゆくもゆくらの坂もあり人ごの先立ちゆくこそ有[illegible]

○さ坂ハ逢坂ナレバ人ニ逢ツベキヤニ[illegible]坂ヨコエツヽソシテマアオシテイカツシヤルヤ

カコデハ逢坂ト云名ハ[illegible]モシサウニ空エテ[illegible]ニナラヌ名ヂヤワイノ コガ人ゞ

ノメト云モノヂヤ 人ダメトハ 人ニ[illegible]モシラヌ名ハセテオイテソシテモ通リ

テモナウテムダナヨウニヲマス

ありそうのちかるゞさゝ[illegible]まかりくるうめもさくら

ふよ先生

君がゆくこゝみちくも山もちくねどもゆきゝふ[illegible]海ハそゞ

篠原かなもと

○キ船ノイカツチ北モノヲハ物有ハ不案内ナレバ 白山ハモトヨリノコト

惣躰音ノ涼イヨヂヤトイフナレバ キ船ノ通ツテイカツシヤツメソ

ノ音ノ跡ヲタヅネテ物有モ系ウ

人の死山ゝゝゝゝゝできてゆきつゝくり

ありとしらるゝ雪よ先生 信正通昭

タヾ逢ぬまぐれる山とみえくもむよふにこそとぞりそべく

○名ノ山ヲノガキハ山トヨムエハヨイニ ソウシメナラ 秋ハ山ハコエラ

ヒイトモアテ アノイヌル人モヨヒハコンデトマルヤウニ

山ゝのぞりてかゝゝとまゝゝで雪て人ゝゝ[illegible]

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

でふよめる　　幽仙法師

こゝろ後だに山乃桜ホキ名てふむこめでゝ折乃まふく

○サテカウ折別レヤスハキツウれお念ナガトニテ　折係ガナニボオトメヤ

ミメトテトマリハナサルマイホドニ　コレハ此山ノ桜ニウチマカセテトメウモ

トメマイモアノ花次ヰニ後サウソイ　オノ〳〵モヨモヤアノ花ンフリ

モギツテエカヘリハナサルマイワサテ

うつらんみんなみこの今朝会ふ山のかりてこりくる

おちらぬ前の花のなそよめる　　係正角んぜ

山風にさそはれ吹まき乱みだるゝ花ぬきまぎれ立ちるべく

○山風ニ此様ノ花ヲ吹巻テチリミダレヨカシ　ソレヲ見ヤル人花ノチリミダレ

ルノニマギレテ　カヘルベキガニメトニテ君ガオトマリナサルヤウニ

ホゝと　折〳〵ハ見ゐるべくホゝハるゝむこのて笠ぬるゝ花ぬきまぎれ

○トテモ見ヌニ咲ホドナラバ　君ノ折リ見ウモ百テオトマリナサルヤウニ

咲メガヨイ　ソレニ君ヲヨカヘシヤスハ　花ノキヨエヌノデハナイカ　花ノ

キヨエヌノヂヤワサ　幽仙法師　強句又

ソチガメメニモウイフテヂヤワサテ

仁和のみかぶみこ折〳〵雨ふる時ふの滝

[illegible]

兼芸法師

○おりふしにて[illegible]

又エルデカナアラウ

○[illegible]

秋萩の花をばるうぬ[illegible]

[illegible]

○萩の花のみえ[illegible]

[illegible]

[illegible]

兼純王

[illegible]

○ソノヤウニ拍子ヲ始ニデトサレウトハ今日マデ着モ着ゼナニメ サウシメキ

招ノ心ヲヨマメ着ゼナニメウナニ 拍子ガ有(サ)ハ秋ノ時分ノフルト云ヤウニ (九)舊

ウナツテラチノアカヌおニナリマシタメ マソットおウ若イ内ニそれ志ヲ

知ッタラ別ニテ大ケイニゴザラウニアル、ト念ナ

うれしみありきみりそでおそくおきてあ
ある
悩よある　みつぬ
コから里どろしくもそろこよひぬえぬる紀ぶ行を思ま
○れおしヤスハナゴリヲシミウハアレドサテ〳〵マア姉シイフカナ　ナゼニトヤスニ
今夜ヨリサキイマゾれ近付ニナラナンゾウイチニハ　イのヲオナツカシウハ
ヒマせうゾコヨヒ始メテれ近付ニナリマシメレバコソれおレヤスナレ　スヤ
別レナゴリヲシイヤウニれ近付ニナツメ玉ガナンホウカウレシイフガヤソサテ
ウびしてコから紬乃ちゝまろ思ぶかさゝと吹〳〵みてぞゆ〳〵
ようよ人〳〵らび
釈しらび

○ノコリオホウテ別レ紬ノ後ハ玉ヤウニ思ヒ慶レガヒ玉ヲバソコモトノ形ヘチヤト
形ニテ鼎ヒ此ニツく〳〵デサ系レ
かきりおく思ふあるゞ糸ろ〳〵ぢぬる紬ゟかとうゞ魚も旨まてふ

○レヤウカヘヲナホウカ悲シウ思フテ泣ノ後ニヒツタリトヌレメヒ紬ハ又魚ヲデ
ハカツキハスマイ　ナゼヤト云コレホドニ悲シウ思フテヂヤヨツテイツマデモ忘レラ
レマイホドニイツヲ限ト云フモナウ泣テメラスデアラウニヨツテサ
かきうしぢと、ゆ〳〵ぬ玉ぎぬさそて君後そゞめむ

○ヒ書ヲハトテモラルホドナラバガキクラシテマツトツヨウフツメガヨイ

ソシテウ　ヒヲヨイヒメテニシテヲヒレテイク君ヲトメーウニ

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

ちひてゆく人をとゞめん秋もがな

○トメテモトマラズニシテヲレテイク人ヲトメウニ 採花ヨ道ノシレヌヤウニ

チリウヅンデ ドレガ名ゾヤトアノ人ノマヨウテエユカヌホドニチツテクレイ

ちらばいごえうていしめ井みるをしめしひろ人のこと

ウヒ)るをもとよめる歌

もとすぶよみおきつゝふくごる山乃井あらでも人にわるゝ水

○和泉ヤウナ山ノ井ハ浅イホドヤシヨツテ飲ウトモウテスンバチヤウ

ド(ヨ)ノヤウニスンウテ飲レヌホリタイホドヤガ

テウドヨイ程ニサテクヽアノ人ニオレタイカナ

きにあくりる人乃ちからをもしらぬ

ところそよめる

下ゲ帯乃みちかくさかるそでをゆき先々なりても色ことそ

○帯ヨスルニウシロ(カテノホウデハ端ノ方ガ長イ方(ワカルケレドモ前ヘマハシテ

結ブホウデハ又イキアフホドガ)モ色ニ今ノイク道ハナトホリ別ニソ

カレテイクモ又ソノウチドウニテナリモ生合ウサテ(デアハ)

古今和歌集巻第九

羇旅歌

安倍仲麻呂

もろこしにて月をみてよめる

天の原ふりさけみれば春日なる三笠の山にいでし月かも

○今カウ元ヲヅトハ心カラ元波せバアテ海ノウヘ〻月ガデタ　アヽアノ月ハ右ノ三笠山ヘ〻〻月デアラウカイマア

ひさかたのあまのかぐやまこのゝへにゐつゝもみつる月かも

そしらぬ人のためにもがなと思ふ我ぞかへりてはうらみつゝ

でゝござるを此ほうへ又ほうひまりしてござる小

あぢきなくてまゝできぬゝとてござるとをるにやい

うといやつこさうのうみべでかのをち人にうみをるむ

まし〻〻と申ふるとて月のしたりとおりゝ〻ろ〻ちし

もろこしをる我えてよめるとおんなことつゝある

おきのゐて舟こぐあまをとめよ我にもしらせよ海士のつり

京なる人のもとにつかはしける　小野篁

わたの原八十島かけてこぎ出ぬと人にはつげよ海士のつり舟

○ユンサキハイクラニナク時ニアヤメアルヲ時ヲ知ル舟ヲ私ニタトエヲ人ニハ云ヒヤルナヨ海士ノ釣舟ヲ私ニタトエヲ人ニハ云ヒヤルナヨ

紀秋岡の従ふ

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

みやこをてらすつきかの系しづく川を風をしがらみかけやせん

○今日系ヨリセテヤミカノ系ヘキテアノ向ヒニアル江ノ山ハ麻肯山ヂヤガイイツミ川ノ川風ガキツウヲイニアノヤセ山ヨオノレニキルモノヲ借セ山

ほの〳〵とあかし〳〵の朝ぼらけ漕ぐ〳〵船を思ふ人〳〵

○ソノ朝ノウス〳〵トアケテクル時ブニ海上カラアノ向ヒナヌノ浦ガ朝方デカクテアルエヌヤウニナツテイクケニキヤヲウヨソニアルテヨテイル船中ノ心ハサテモ〳〵心ボソイモノガナシイコヂヤ

けふかくる人のいそぐがきこえねばおもひおくとの人さろづ

けふかくと打出でさまよるぬく〳〵今昔物語ノ筆法ノ如クニ

ほのぐとあけゆくままの浦ぢよりこぎ出でて海をわたるかぜ

○ソノ朝ノ景色ヲ海ヘ出テ見ルト云ヒタイ

朝ぼらけ古今ノ昔の老ノ名ヲトリテ朝ボラケノ名ヲツケタリ

てこぐ舟のあとしらなみのたちかくれゆくへもしらぬ恋のみちかな

○コグ舟ノアトノ波ノ立チ消ユルヤウニ行ク方ノ知レヌ恋ノ道ヲ譬ヘタリ

海をへだてゝ恋ぬるをいかゞせんあふさかの関しらましやは

○海ヲ隔テヽ恋ヌルヲドウシヨウゾ逢坂ノ関ヲ知ラヌ人ナラバ関ヲ越エテ逢ヒニモ行ケヨウガ海ヲ隔テヽハ逢ヒニモ行ケヌヲイカヾセンヤウガアロウカト云ヒタイ

かぎりなくけふをくらしつ明石の浦の春ぶかみてを

えぬを海のおきよりいそぐ舟人もとまりぞかねてしるらん

（ツルニスル人）

なづみつゝ行かふ人もとまりぞかねてしるらん

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

いきをとゝのゑ八橋としるしおこせたるふその
川のふそりにきつゝ
松そえて来よ陽(ヤテ)ありみそかまつこそとしのかず
数くのかゝらふそえて橋のみをそよそある

かゝるおきつ、彼遠ふ一ほそ一

○二まつ　おゝミナゝジメ妻ガアレバ別レテハルゞト来ル体ガサ心ホソウ

おがナニウゐハル、

もさ一ゐ玉とまもりのふとの中ふるそみづ

生ふ業ふ教法

川乃ほとふ一てみやこのいと恋一うるがくれがたし
川のふそりふてみそひやまバ松りかくをくもふ
をふ郎とゐびてわらふそこ一りをとゝや
私りの遠日もくもあとひくバ弘ふのそて海一む
とそるびみるくおそびー一て来ゐ人るく
一そなびさるをりふ白きよそとの一と
ひうき川のほとりふ乃そびくをと来ゐぬるかり
○それがみるくんそ一変波一りをふこ遠い行るそと
ともくゐびこ遠るむみやこをとしひそる我さてよある

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

みふ——おくいぶかくいもみやこ
○都ト云フ名ニツイテ若ルナラバ定メテ京ノヨウナ
ホドニドヤモイトハウ取ラヨコチガ
ものを
きこ（ゆく）ゐぞ思ふ（ゐる）ほど（て）こ——取ら
○ホノ方（イヌル）ゐがアノ（ア）ゐワイノワシバカリカト思ヘバアノ
ゐモツレズツテキタ人ノ取ハタラヌヤウニナツテサ（ア）ル
ヤウニデアラウソレデアノヤウニ泣テイヌルトスエル
ヤウニ
けふハ（ゐる）人（男女）ゐろとも（ふ）人の玉へ（まかり）ゐをと
こまかりいとりてそ（ふ）ちみまかり（ふ）をバ女むとり

京（く）とゐる（ふ）ゐの（ゐる）後きてよゐ（ふ）とゐん
なつまかうよふと京（く）まうでくそそそそよゐ
おわて
山（ゐ）ろうて（ふ）ゐすきぞう——ゐんー（ゐる）京好きうひゐ（ふ）ん
○ドノアメリガ京ノ山ヤウ（カタトキ）片時モ早ウカ（リ）メウ（ベ）バモウ京ノ山ガスエルカ
くトゐルツテスルケドドレヂヤヤラシヌ アノヤウニ山ヨカクシテハツキリ
トスエヌ奥ノ家カ（サ）キヨエヌ家ヂヤ
こ——好き（まかり）ゐる時ちゐ——ゐを（ふ）てよゐる
きうんそゐる時——取（ふ）ゐバ（ふ）ぐてゐ取ゐ山のゐゐ（ふ）ゐて有

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

○ノコラズ消テシマウ時ト云ハナンテイツデモアノヤウニ君ガアレバ小舟海辺ノ

白山ト云名ハ客ノ下ヂヤソイ　　折敷名トシテアルホドニ

あつまへ海ちどりなく時そこそ　　つゆき

いとふる都ぢおくぶかみ山ぢ　　ちよんぼそらをもるゝ秋ゆるか那

○麻ナドヲ系ニヨルバ細ウナルヂヤガカウシテ系ヲ別レテキメ筋ノ通ハ

ソノヤウニ系ニヨルモノデハナイノニ　　サテ〳〵マア心ボソウ思ハルゝ事

かひの玉へまうくるそこそこそ　　みぢ秋

歌をきゝおくそのゝ秋をそこひつゝ菊の花のまつてび秋ぬ

○ナゴロハ歌ガヲサニ系ヘハヲガフツテアルヲイク歌カヲ系ヲ合

フテハヲヲハフテハヲ　壮ノ第ヲ松ニシテモウハヤ行ノドモ〳〵ヲメ

名ぢ海の玉の沙へまうくる時ふぬるみの浦とふ

那ヲ第ヲテクさうろふ　ツレテアツタヲヒヲ

有名人〳〵あよみする　　春原かゑ家

夕づくよおいつく那ぢ後ぢ〳〵ぬるみの浦名ぢのもてこそ

○図ニ云ヘル浦ノケシキヲ見テタイモノヂヤガコヨヒハ有月歌デマヅ気

ガウスケレバハツキリトハ云ヱヌニ歌ガアケテカラカトツクリトヨヤウ

こゑこそよみこの乃こゑふかうらする時ふぬる乃川

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7

ガラス使用

物名

○秋ノ手向ニハ必ズモ付ツリノ紬ナリ既ニ切リキザンデ麻ニシテ手向ルハズナレドヤウニテモ其ノ縒ノ縒ハラ一ハイヌテ元ヲナサルヽ糸ナレバヤウナキメナイヅリノ紬ナドハ元ヲナサルマイ　オカヘシナサルデカナゴザラウ　ソユエサシヒカヘテ向マセヌ

うぐひす

夜ヲ籠ニコメテユキノ朝ノ鶯

ムウ〳〵花乃ちづくふそふぢつて〳〵ふく〳〵むぐとのこゑるおろくらん

○オノガ心カラスキデ花ノ宿ニヌレナガラ　ドウシテアノヤウニツライコヱヤ

カワカヌトシテ雪ノヒメスラナクニヤ

ほととぎす

くべきホドヽ〳〵ホヽヽヽとぎすや待ラヽヽヽヽ

○郭公ガ待ツ妻ノ来ベキ時節ガ迫テコヌカシテマチワビテナクアノ声ガ人ヲビックリサセル　郭公ノウヽヽノ意ノヨウニ組ミ込ンデアルヽヽヽヽ

うをゝ

左京大夫顕輔

沼乃うつせみ　むすびおもほえず　袖ゟこぼるゝ　もゝくさの涙や

○沼ノ鴨ノ浪ヲ見ヨ　多玉ガ　トシトマコトノ玉ガ　チルヤウナワイ　アノ玉ヲヒロウメテ

ホシノ玉デハナイホドニ　袖ヘ〳〵ウト・シメナラ　チキニ消ルデアラウカ

従五位上行摂津守藤原清輔朝臣

袖ゟろ——

かへ——

多かくもなるをおもひ侘ぬ　いまはの命　なにをしかまし

○老松ハ袖ヘ入ウトシメナラヂキニキエルデアラウカトヽヤルガ　デモ袖ヨ

オイテ外ニ玉ヲツヽマウカ　袖ヨリ外ニ玉ヲツヽマウ和ハナイワサテ　入年老松

よゝ——

千生の老松

ゟろ〳〵

ノ袖ヘツヽンデ　コガサ　ソレヂヤトヽヤルワシガ袖ヘウツサツ　ソレ　ワシモヌヤラウワサ

打次ゟろ——袖村ゟ縁

ゟ先

いろうめふくかぜの　ゟもえぬるあまつそらかな　春のよの月

○梅ノ花ハヤレ〳〵ウイ和ヤ　コモナウ芳テシマイサウテ　目ニ常住ヌラ　サウニモ

ヌエヌコトカナ　ソノセアトデ意シカリサウナ　香ハヨウニホウテサ

つゆき

ゟ京ゟも沼乃水ふゆゝゟ　ゟで風ぬくぶよふ氷もうむ

○海ニ沼ガ立テ水玉ノチツテキエルハ玉ノヤウナガ　ソレヨホンノ玉ヂヤトヽウテ

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

を海ノ底ヘハイッテ取ウトスレド浪ノ中デハドウモチニアズライデ トラヌ
ソシテ凡ソクダビニ テウド底ニアル玉ガウイテハシズムヤウニ見エル

ときしの花

今いくらも来しかねどうらびぬもゝのうれが咲てるりつゞるを

○モウ春ノアヒダハイクカモナケレバ ソレヲ斗リ多ウモウテ 人ト同ジヤウニ
賞モシンキサウナカホシテ 抱ヒスルヤウナ サウスエル

鶯うやぶ

かゝりけむ

○垣ラメラウレシイハズヂヤニ 色ヒナガラモヤツハリソレデモサカナシイツイ
アヘバワカレル ヨヘバカメカラ ヲニヨツテサ

ときでぬ

第一ひきゝ山鳴ちる水也ゆく春のやどりさびめぬ営ふこそ
(ひ)

○山カラ立テヤルテイクヒノトマリドコロノ定マラヌヤウナ物デ トント行来
ノサシヌ当ノ中ヂヤワイノ

をうし百敷

そをのゝ

杉菜

みよし野の滝ふるかびのこけの衣ほすてふ春のきぬとそ見ん

○吉野ノ滝ヘウキデル水ノ沫ヲ 人ハ玉ガ散テキエルトヲルデアラウカ

やまがき

やまがきの末

よみ人しらず

秋ぞきぬ今やきぐ〳〵しよぶる

○秋ガキメコデハ凡ノヲサニモウオツテケヅガキノキ

なひろ（浅）

かくてかりつゐのひまれなる人をいでつ〳〵とるりはぎるべし

○コレホドニアラコガマレニナツタ人ヲ ドウシテツライト思ハズニ居ラレウゾツラウ思ハイデハ

人先ゆゑのちぶあのひのそるをくハさがつ〳〵れやそひるさ沙汰（む）

○人月ヲツ〳〵ムユニコレカウ後ニモシ逸ツテガをウナツメナラ そうテハユラズニ

コナガツライノニナルデカナアラウ

くるふ

信心遍昭

ちるぬるをバ後もひのこぶる花を思ひそでもまでそめてつかの那

○花ハナツテ三ベバ後ハ芥ニナツテシマウテナンデモナイ和ガヤニソシヨエガテ

ニサズニサテモマア アノ蝶ハ花ニマヨウテ井ル下カナ

さ〳〵む

ほ〳〵ゆき

コヒハさくらひろそでそうる花乃色残りごろる和といふべくりをと

○ヨレハ花ト云物ヲ今初始メテサヘ久分 花ヲバせる人ガアダナ和ガヤト

云ヂやガナルホドスレバ アダナ物ト云ベキ色ヂやソイノ

をみるへ

そそめり

ふる家残るりぬくやさてぐぶ好花乃梁をも梁をも梁をみ遍昭

○秀ヨモニテハナゾトテヤウ蜘ガ女郎花ノ花ヘモ秀ヘモミナ糸ヲ引テルケメ

私家ヲクモラヌ程ニ花ニモトヘ分ケゾ来ル蜘

○女郎花ヲヨヤウトヨツテ私ノ家ヲ分テヌレヤ山ヨアルイテ　今

日サドコモカシコモトホツテミナ知ッメ

朱雀院ノヲミルヘシトウセ給フヲミルヘシトテ

○小倉山ノ峯ノアメリヲアチコチアルイテ吟ル麻ヲ白山マテ往テキメ秋ノ

教ヲサ行ン事ヂヤカヒ人ハナイ

ヲクラ山ミネニ立ル紅葉ハナクハ麻ノヘニモ錦ヲリカケ

ソヨ〳〵我ヲ分ウラフルキテヲル風　ツユゆき

ともの今と

きちかう折花

秋ちくさ咲ハ咲ふくさ〳〵ヲ折ルヲ菜ヲシロッカリゆく

○他ノケシキヲヨンバヲクガレノ折ガナイ時岸ガ近ウナツメワイ　ヲノイタメ菜ノ

菜モ色ガカハツテキメ　秋トハ知ヲ

私モ秋ハヲヌ菜ヲヤトフラシルヲドヲ考ヘ合ヲヘ

ちをふ

よう人〳〵らべ

ありそうでいぎぬるうちとの花ヲんとこそ

○ドヤ昔ノ五形花ヲヨヤウゾトヤッテヲザ〳〵キメモノヲ　モウサ色ガカハツメワイ

つらつらつんのそる

友のそ

コヂやどめそふこそごくとうこうのそ
○コナノ花ヲ大ヌノ花ヨフミアラスアノ名ヨオフテヤラウ 住吉ガナイカシテ
トヤクコ(ヰオル) そごくハ
をでれ
よみそこび
をでれハ尾花之折文の袴ろし一百集のあれ候之
○起ジテ云中ルヨハナシテモアル物ヂヤトウケシヨル心ガヨカラウカイ
ガタイス句三云中ルヨヘバ塔ヤイおヂヤト
まふご
やこべのね実

うつつをふこ(ゝ)そ云ヤ色をとんむおく白おりともるそう 我
○花ヨムテカツキヤシニ濃(コ)イ色ヂヤトムヤウモノカ アレハ花ノ色ノコイノデハ
ナイヨイタヤデヌレテソレデアイトホリニ(マ)ハウ入エルバカリヂヤモノヨ
二條ノ后春之のみやとむ前(仙袋棟)とやしるる際ヤどふをで
とそるさやりろ流ろ方せ折のそる
ぬむやのやとむで
花折本ふつ(ゝ)さ(ゝ)咲ども咲ふ句を綱り糸(ゝ)このミなる時もがる
○ヰ削(リ)花ヨムマスバ花ノ咲ベキ本デモアルマイケド花カサキマシタツイ 我せ
バナルマジ新本(モ本実(ツノミ)ナルヤウニ年ヨリマシタ私がヰ万モドウゾ立身イ

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7
ガラス使用

タス時常モアルカシトヲヒマスル為デゴザリマス　後朝の句の如何いたしたろー

きのふこそ

山ざくらつぼみ初しかおもふくちやくで花で笑ふ風

○近所ナ山ガラサニ常住嵐ラ里ノ花ハサ咲テアルマモナシニツイナッテシ

マウツイ　　折関口の句乃説ろろー

やまー

本なつゆき

郭公鳴やさつきもやまだもとおりとおきこゑどころもなき

○郭公ノ字ヲ中ヘトンデイメカシラヌ　アソコラデ鳴ドハ当エルケレド

ドウモ形ハえやうやうガナイ

かー　ろろ

うつせみ人をよみ人しらず

うつせみの…ふ…未ごとふそでも四ど句なれゆく（をえぬそでろふ　ろろ

○蝉ノカラヨバメギステンドノ木ニモトメテオイテ　をヲ入ドコ（カ花デイヌルガ

ヒ人間モテウドソンナ和デ人ゴトニ孔ヌルバミナカラメヨバ棺ノ中（トメテオケドモ　カンニンノ玉ヒハ　ドコ（トシテイヌルヤラユク（ガシレヌヤウニナッテシ

マウノハカナシイコヂヤ　折関ろろー

ふうや姻

かそるぐさ

うそぐさもわすれ草ともいふめるを

○色メイトやう人ヲ着ニデモえんバ心ガ井ルト云ナ花四着ニ見ズバカリデ

○トウシテ心ガ井ヤウゾ ヰヤウジンニ色テサ〳〵ノメラヌヤウニ心ヂヤモノヲ

さがりこけ

あうむこけとそ

花の色ハうつりてさくとこをもしらぬ春の空哉

○花ノ色ノ淡イハメツタニサカリテソヅカノ乃ベカリナルニモソヲ露ハ毎朝

毎晩ナニベンモ〳〵サソメルワイ メツタニサカリナ物ヲソノヤウニ深ズモヨイコヲ

ふがこけ

ふがこけハ次ヲルカラそれとてふらさぬ雪の朝ぼらけ(下)

いのちそと雪の残りのむすぶ手のしばしもとけぬ春の清水

○此ノ出ハ家ヲ今ヂヤト定ヲテ教ミニスルニモ教ミナリニクイハカナイ物

ヂヤニヨツテ 雅致ニ定ヲテカナシサウニ〝ヲ〟

かるもこけ

さよ姫てふそでこそみゆくらむさかりの月次うゑを秋乃山風

○歌ガフケテモウ半分ホドモタケテイクアノ月ヲ京ノ方次カ(せ)秋ノ山ノ風ヨ

ちんせい法師

ちりそめてぬるよもあるそ残りなくちるをみるまの春の山風

○ワラビハナラハ煙モ立テモエルゾヂヤニ煙モ〳〵ズモエルモエヌ第ノ条ヂヤモノヲ

メガワラビト云名ヲツケテソメタコヤラ

さ〳〵しぐれ

さ〳〵しぐれをだ きの秋のもと

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7

ガラス使用

いそしめる時まりまふで日そへぬるんでせをば人りえしてて

○けるこをとゞめせウトメガヒニ約束ヲシテオイテ　千日マデハツイワヅカノ号ゲテ

○えつて待アヒダニ　大タ日数ガタツメツイ　コレデハドウアラウカシラヌヲ思ツテ

心モトナイ和ぞ　をゝウト云ワシガ心アヒヲバ人ニうんラレテアヽコンナ

フナラ約束せ子バヨカツタメニ

○なー　ぬる先　ぬるミ

ねずき哉。ぬずき哉。ぬるめそう紀る。

○イロ〳〵サマ〴〵ウイヲヨニをテ来タけ男ガエステモせズニ居ナガラソノ

ウイヲノカズ〳〵ヲトリアツメテ数カウヘデハナイ　アヽムヤシナフデヤ

○かゝ　ふとしおとこ須ふてき事ありてそうる日よめる

安信　清行　紀友

○アノ泊ノ音ノ分ケカラカハツテ空エルノハ

うハ毒ノ調子ニナツテ　吹日マデトハ改マツメカニラヌ

（河内名所）

しうぐいちき

うぐふなうる泊乃志つく我妻形ぶ

○毋ノカヂ（アメツメ泊ノクダケテチル音トガ　今ハ毒ナバ花ガチルトゾハル

アヨドウニテ花トアヌ者ガアラウゾ　花のさ花ちるとしつゝ

（タバ散トテ）

こぎちるとて 打なびく

近江
かゞさね
我ヨリ早ク人ノ渡テ有ト

なれやつる

阿保、経覚

かのうこしのうみに さねかづらくり

向カタヲサス

○えにはアヤノ辛崎ニ人が立テ居ルガ アソコヘハ今マデニ何時渡ツテ イツ

カラアンニテ居ルヤラ 今マデニ渡ツタナラ 其跡ガアリソナモノナレモ

沖 咲 敬

沿の苑ちきかく ちきてちくしく

拍子ヤ

○沿ノウチヨセテクルハテウド苑ノ春ナツテクルナヤウニ人ガ

行勢

沿の苑ちきかく ちきてちくしく

拍子ヤ 花ヲサカスハ春ノコトヽ 沿ノヨセテクルハ風立ヽ

ヨセテ後ヘ春テクル 沿ノ苑ハ アノ沖ヘ咲タ苑ガ 沖ノ方カラチツテクル

打ナビク上句ヲカケルマデ

式内 高橋神社ヨリ

平野前神ニ川 神ニ川ヲ論語ノ誤ニスキシト

かみにがけ 誓ひたのしい ゆき

○ヨノ人ガ色イ髪ガ色ガカハツテミヘルガニナツタカラヌ 浪ヘウツヽメ新ヨ

ゑにハ ツムリヽマツ白ニ雪ガフツヽ

嵐沿川

よゐとかゞて

○山里ニ住テコソ知レバ常住ヲノ人ノ心ハ
久堅の雨の降日と しく物思ふ我が宿
中チヤニ何トセイトテコソデハヤウニモサヘハレ物モナイコヲ

河海ニ野
かく野

○ウヘニハ友ノ事ガ一ハイ ハエテデツテ
ノデ抽テハ云ヲ人ニモシラレズ工立身モセヲバ テウド奴ノ沼ノ
流レテユクホノナイヤウニサテ〳〵心ノユカヌコトカナ

添ノ石ドコヲ忠テ

友葉おうへゝゝをもるゝ秋の夕ゆくかこのおもさ永ゐ郎

かうへの文

○百和香 萱草ノ名 今ノ仮名ニ加味有ヤウカヲコヽロ 神仙花ノ名

杜子美ノ詩
花気渾 百和香
張錦繍之帳 燻 百和香 何モタキモノヽヲヽルベシ

○百和香
施ノ一云 施ハ一ノ名ヲルヽヲ云 此丸キ施ノ
ハヤヒラヲ云 此丸キ施ノ紙ニ百和ヲヌリ引、
法隆寺西室 古面壁 オレハフソクニモフソ タイテイフソクニモフテハナイ
法の為つくる花とのみ〳〵ふ今ハ世の形ばかりをもる
（此施ハ百和ヲヌリモ）

もみるが

ちぐさの原

安ヤハナルナリセヌ

秋ちゞと月のうへゝゝゝみやるむり我花とちらばちれ

○ソウタイノ赤ハ妖ガクルバ実ガナルモノヲヤガ

カリヤモノソレニ当ルデ秋ノ月ヲバカクベツニ賞翫スルハドウヲヽフゾ

百和香 ハリクワウ 根本萱草ノ一

よみ人しらず

○花トヽ云花ヲバミナ折リタイニヲラシテ云ヲメヤツナレバ凡ヲバドホド

ソクバク

こばしくそをくるがうしとゝ思ふ

ちぐさの原

春がすみ　かりのこゑ（卸）

○夏ノ歌ノベッタリトフサガッテアル中ニ（ホ）亜ッテイクらがナイナラバ　秋之歌

○ガ夏カヘリハスマイニ　歌中ニモ道ガアルデ夏ハカールデアラウ

おき火（今本をとの誤り）　都良香　沖于　みやこ人とハ

流ルいづるかづにぞぬるる川ら。

○流レテ出ル源サヘドチヤカニ又浅川ナルバ　マシテ底ノ源サハイカホドアル

カニヌガモニ沖ノ嶋イオデ（マ）ノ千ル時ガアッタナラ　底ノ源（カ）サモ又エルデアラウカ

ちまき　粽。糉。燕尾。（イモチヒキ）角飯。（苗）

大江千里　田ノ実

のちまきをてふるまくるを見て

○後薄（マキ）ノオクレテハエタ苗デモ（ヒ）ナンデモナイ抜ニナッテ云イハセズニ　秋ハ苅バ

リ実ノツテ来ミノアル由ノ稲ヲトサヌ及ニデ居ル　スヤ学問デモナンデモ

ソガケヂヤト云テスマイヤウハナイゾヤ　打変ヒの句の泊俗さし

○ハライツハイ月ニ又アンカト思フテ　花ノタノシミ咲テアル中ヲ（ニ）ふテイケバ　花

のあるめぐみうくやとてをゆけどもんぞとふちるぬる（三）

めと人乃いひるをしばよ先る

○月がウリテコチノ心ガサ　花ノタノシミ咲テアル中ヲふテイケバ　花

遠鏡三の巻終

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7

ガラス使用

寶 7 6 52

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『古今和歌集遠鏡 20巻』 請求記号 WA18-7

ガラス使用